

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宝木中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年 国語 106人 社会 105人 数学 105人

理科 105人 英語 104人

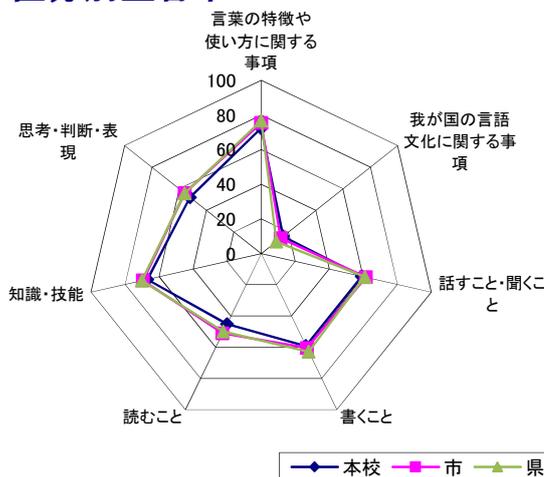
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	72.5	75.5	76.7
	我が国の言語文化に関する事項	16.0	14.3	11.2
	話すこと・聞くこと	59.2	61.6	60.9
	書くこと	59.2	60.4	62.9
	読むこと	45.1	51.0	49.9
観点	知識・技能	66.9	69.4	70.1
	思考・判断・表現	52.1	56.0	55.9



★指導の工夫と改善

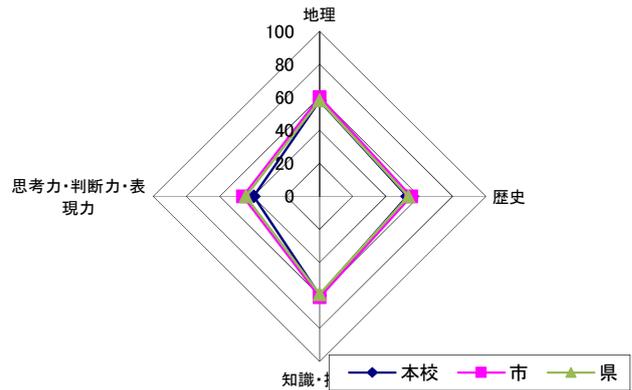
○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>正答率は、市平均を3.0ポイント、県平均を4.2ポイント下回った。</p> <p>○漢字の読み書きの問題では、市平均を上回っているものもある。</p> <p>●語彙力が低く、言葉を的確に使うことを苦手としている生徒が多く見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力を高めるために、ことわざや慣用句、文法などの単元では、分かりやすく丁寧に個別指導を行う。 ・文法については、生徒の日常生活との関連を持った言葉を扱うことで、言葉を的確に使うことの大切さを意識させる。
我が国の言語文化に関する事項	<p>正答率は、市平均を1.7ポイント、県平均を4.8ポイント上回った。</p> <p>○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことは、おおむね定着している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、音読や朗読を通して古典特有のリズムを味わいながら、古典の基礎事項の定着を図る。 ・古典への興味・関心を高めるため、様々な古典の作品に触れ、昔の人の生活や考え方を学ぶ学習の場を設ける。
話すこと・聞くこと	<p>正答率は、市平均を2.4ポイント、県平均を1.7ポイント下回った。</p> <p>○授業において、話すこと・聞くことに対する意欲は少しずつ高まってきている。</p> <p>●目的や場に応じて自分の考えを話したり、話し手の意図を考えながら話の内容をポイントをおさえて聞き取ったりすることが苦手な生徒が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中でスピーチを取り入れ、話題の提示から、自分の意見や考えを述べるパターンを指導する。 ・聞くときにメモをとらせ、5W1Hを聞き取る基本的な学習内容を取り入れて指導を行う。
書くこと	<p>正答率は、市平均を1.2ポイント、県平均を3.7ポイント下回った。</p> <p>●書くことに対して苦手意識の強い生徒が多い。</p> <p>●文章問題から答えを抜き出す問題に比べて、無回答率も若干多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」の単元の指導を強化し、様々な意見文の書き方のパターンを用いて、丁寧に指導を行う。 ・字数・時間・条件などにあわせて記述する練習を授業や、単元の感想や意見など、短い文でも自分の考えが書ける活動を多く取り入れる。
読むこと	<p>正答率は、市平均を5.9ポイント、県平均を4.8ポイント下回った。</p> <p>●説明的文章の読解が苦手な生徒が多く、無回答も多く見られる。</p> <p>●少し長い文章になると、文章に出てくる言葉の意味が分からなかったり、文章の趣旨が抑えられなかったりする傾向が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・短い文章で内容を要約するトレーニングを取り入れて、文の大切なところを押さえる学習を取り入れる。 ・内容を比べながら文章を読み、自分の意見や立場をはっきりさせた読み取りを授業で行う。 ・小説などの、心情を追うことは好きな生徒が多いので、伏線に気をつけて読み取らせるなど、テスト問題を意識した読み取り方の指導を強化する。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	57.9	60.1	58.1
	歴史	52.7	55.1	53.5
観点	知識・技能	60.0	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	39.5	46.0	44.3



★指導の工夫と改善

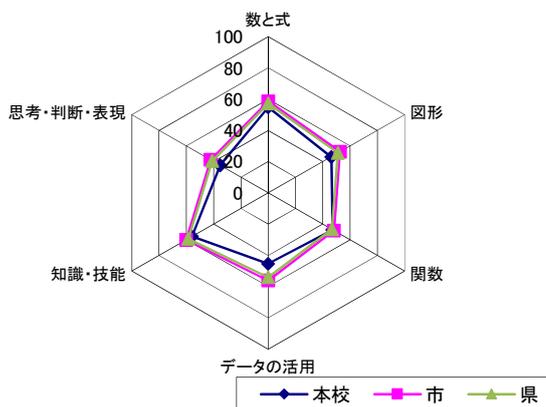
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>正答率は、市平均を2.2ポイント、県平均を2.0ポイント下回った。</p> <p>○地図の特徴を読み取る問題の正答率が高く、資料活用能力が高まっている。</p> <p>○知識・技能に関する問題の正答率は県平均を上回っており、基礎・基本的な知識や技能を習得している生徒の割合が高い。</p> <p>●モノカルチャー経済の課題についての記述式問題の正答率が低く、複数資料の活用を苦手としている。</p> <p>●移民の推移を読み取り、読み取れる内容を古い順に並び替える問題の正答率が低く、並び替え問題に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図やグラフの読み取り方について、授業の中で複数資料を活用し、読み取るポイントなどを指導していく。 ・地図や地理的事象に関する基本的な理解を深めるため、地図帳や掛図を効果的に使い、地図に触れる機会を多く取り入れる。 ・並び替え問題に関して、歴史的事象と関連付けることで理解を深め、問題文を読み取りながら順序立てて解けるよう指導する。 ・調べ学習や問題解決型学習を効果的に行い、資料活用能力や思考力・判断力・表現力を向上させる。 ・ICTを活用し、自分の考えをまとめたり、共有する時間を取り入れ、表現力を高める指導を行う。
歴史	<p>正答率は、市平均を2.4ポイント、県平均を0.8ポイント下回った。</p> <p>○知識・技能に関する正答率は県平均とほぼ同程度であり、基礎・基本的な知識や技能を習得している生徒の割合が高い。</p> <p>○中世の問題の正答率が高く、基本的な歴史の流れを理解している。</p> <p>●複数資料を用いて考える問題の正答率が低く、複数資料の活用を苦手としている。</p> <p>●文化について考える問題の正答率が低く、文化史について課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のはじめに前回の学習内容の復習を行うことで、基礎・基本的な知識の定着を図る。 ・歴史の流れをつかませるために、年表を活用する習慣を身に付けさせる。 ・調べ学習や問題解決型学習を効果的に行い、資料活用能力や思考力・判断力・表現力を向上させる。 ・文化史については既習事項との比較を大切にし、資料をもとにどのような変化があったのか記述する活動を取り入れる。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	54.8	58.6	57.2
	図形	46.2	52.6	51.1
	関数	47.2	48.2	46.8
	データの活用	45.3	56.1	54.1
観点	知識・技能	55.9	60.2	58.6
	思考・判断・表現	35.2	42.3	40.9



★指導の工夫と改善

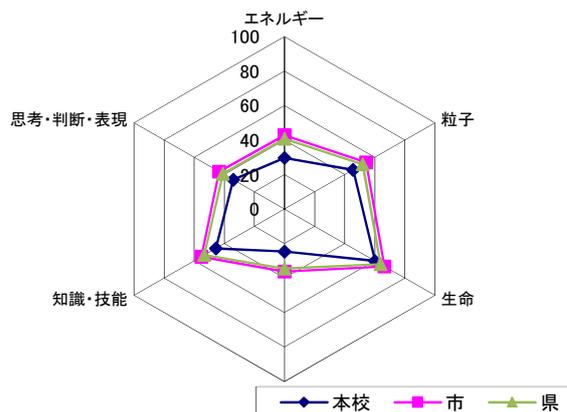
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>正答率は、市平均を3.8ポイント、県平均を2.4ポイント下回った。</p> <p>○負の数の減法を計算する問題では、市平均を5.7ポイント、県平均を6.5ポイント上回った。</p> <p>●素因数分解をする問題では、市平均を8.1ポイント、県平均を6.6ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1次方程式などの計算演習を繰り返し行い、計算力の定着を図る。 ・計算の手順に必要な「等式の性質」などの知識を確実に身に付けることで、深い理解に繋げる。 ・素因数分解や比例式のような、基本的な知識が必要な問題は、授業で繰り返し扱うことで定着させていく。
図形	<p>正答率は、市平均を6.4ポイント、県平均を4.9ポイント下回った。</p> <p>○底面が合同な正四角柱と正四角錐の体積の関係を選ぶ問題では、市平均を2.5ポイント、県平均を1.0ポイント上回った。</p> <p>●ねじれの位置について正しいものを選ぶ問題では、市平均を14.5ポイント、県平均を13.8ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平面図形においては、作図の問題を再確認し、「2点から等距離」と「2辺から等距離」の知識を定着させ、深い理解に繋げる。 ・空間図形においては、ねじれの位置関係、体積や表面積などの基本事項の学び直しの機会を設ける。
関数	<p>正答率は、市平均を1.0ポイント下回り、県平均を0.4ポイント上回った。</p> <p>○比例の式から、比例のグラフをかく問題では、市平均を9.6ポイント、県平均を12.5ポイント上回った。</p> <p>●yがxの関数になっているものを選ぶ問題では、市平均を10.7ポイント、県平均を8.6ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の意味や、実社会に隠れた関数の活用例などを学び直し、その有用性を実感する機会を設ける。 ・与えられたグラフから、数量を読み解く問題を授業でも取り扱い、関数の考え方を利用した文章問題などを繰り返し解くことで理解に繋げる。
データの活用	<p>正答率は、市平均を10.8ポイント、県平均を8.8ポイント下回った。</p> <p>●度数分布表から、ある階級の相対度数を求める問題では、市平均を13.5ポイント、県平均を14.1ポイント下回った。</p> <p>●平均値を正しく求められている式を選ぶ問題では、市平均を13.5ポイント、県平均を11.1ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・度数分布表における用語の理解や、代表値の求め方の復習を入念に行い、基本事項の定着を図る。 ・資料から読み取って答える問題や、それらを比較し考えをまとめる問題を考える機会を増やすことで、自分の考えを課題解決に利用する能力を育てる。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	29.7	42.8	40.8
	粒子	45.5	54.2	52.0
	生命	60.1	66.4	63.8
	地球	24.6	36.2	34.5
観点	知識・技能	45.6	55.2	53.3
	思考・判断・表現	34.1	43.5	41.0



★指導の工夫と改善

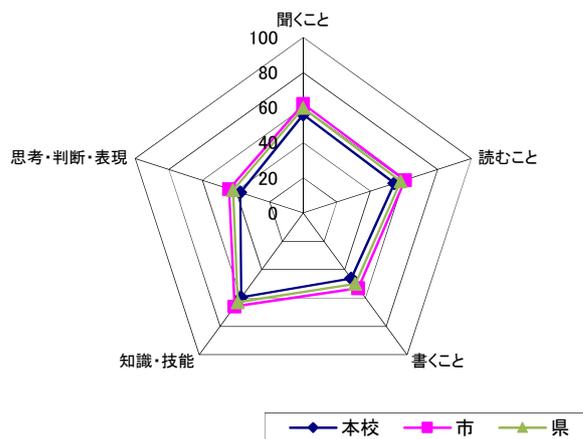
○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>正答率は、市平均を13.1ポイント、県平均を11.1ポイント下回った。</p> <p>●スクリーンに映っている像を選ぶ問題では、市平均を21.8ポイント、県平均を18.5ポイント下回った。</p> <p>●2つのばねの長さが等しくなるときのばねに加えた力を求める問題では、市平均を9.0ポイント、県平均を9.1ポイント下回った。</p>	<p>・光や音の単元は、1時間の授業の中で内容が完結するため非常に忘れがちであるため、復習を取り入れたり、短時間で演示実験を行い、内容の再確認をさせたりする場を設ける。</p> <p>・ばねのきまりについては、数的な処理をする必要があり、数学科と指導法について教師側で共通理解して指導していく。</p>
粒子	<p>正答率は、市平均を8.7ポイント、県平均を6.5ポイント下回った。</p> <p>●密度を求める式と金属の名称を選ぶ問題では、市平均を12.5ポイント、県平均を11.3ポイント下回った。</p> <p>●硝酸カリウムの結晶の質量とそれを求める方法を考える問題では、市平均を9.2ポイント、県平均を7.5ポイント下回った。</p>	<p>・粒子の分野においては、密度や溶解度など単なる知識と捉えるのではなく、単元を通して関わりをもたせる展開を心掛ける。</p> <p>・実験内容が多い単元であり、さらに実験方法を理解できるよう工夫して指導していく。</p> <p>・グラフ化やモデル化の内容は、学年が進むにつれて難しくなるため、その都度基礎・基本の確認を行うとともに、理解の定着に繋がる授業展開を工夫する。</p>
生命	<p>正答率は、市平均を6.3ポイント、県平均を3.7ポイント下回った。</p> <p>○分類のために調べるところとどちらのなかまになるかを選ぶ問題では、市平均を3.2ポイント、県平均を8.1ポイント上回った。</p> <p>●イモリの子のときと親のときの生活場所について答える問題では市平均を13.2ポイント、県平均を11.3ポイント下回った。</p>	<p>・生命分野の学習は、生徒も比較的取り組みやすく、好きな単元であるが、生物の理解が乏しく、名前を知っている程度になっている。授業で一步踏み込んだ点に触れたり、一人一台端末を利用したりするなど、生徒の興味・関心を高める時間を確保する。</p> <p>・科学的な見方・考え方を通して、生命を捉えていく授業展開を行う。</p>
地球	<p>正答率は、市平均を11.6ポイント、県平均を9.9ポイント下回った。</p> <p>●火山をマグマのねばりけが小さい順に並べ替える問題では、市平均を18.5ポイント、県平均を18.0ポイント下回った。</p> <p>●マグニチュードと震度についてあてはまる言葉を選ぶ問題では、市平均を19.7ポイント、県平均を6.5ポイント下回った。</p>	<p>・地球分野の学習は、理科用語の正しい理解が定着していないと問題が解けなかったり、誤解したまま知識となってしまう面があるため、分かりやすく整理された説明や板書を心掛け、自主学习を通して、自分でまとめたり、確認したりする場を多く取り入れる。</p>

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	56.0	62.0	59.7
	読むこと	54.3	60.6	58.0
	書くこと	46.3	53.1	50.1
観点	知識・技能	59.6	66.0	63.0
	思考・判断・表現	37.4	44.1	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>正答率は、市平均を6.0ポイント、県平均を3.7ポイント下回った。</p> <p>○絵を適切に表している英文を選ぶ問題では、市平均を0.7ポイント、県平均を1.2ポイント上回ったものもある。</p> <p>●英文を聞き取り、たずねられたことに自分の考えを簡潔に答える問題では、県の正答率を3.5ポイント下回った。また、無回答率が県の値よりも3.7%高かった。</p>	<p>・聞き取った内容をもとに、自分の考えを英語で書くことを苦手とする生徒が多く、無回答率が高いことから、内容読解の授業において、T/Fクイズをリスニング形式で行ったり、Q&Aを主語と動詞の入った、正しい文で答えたりする指導に力を入れていく。</p>
読むこと	<p>正答率は、市平均を6.3ポイント、県平均を3.7ポイント下回った。</p> <p>○対話から必要な情報を読み取り、適切な表(時間割)を選ぶ問題では、県平均を1.3ポイント上回った。</p> <p>●英文を読んで概要を理解し、英文にふさわしいタイトルを選ぶ問題では、県の正答率を2.0ポイント下回った。また、その無回答率が県の3倍であった。</p>	<p>・長めの英文や対話文を読むことに対して、苦手意識をもっている生徒が多いため、内容読解の授業において、英文を読むポイントを示しながら読み進める練習をしたり、英文の概要を読み取ったりする指導に力を入れていく。</p>
書くこと	<p>正答率は、市平均を6.8ポイント、県平均を3.8ポイント下回った。</p> <p>○空欄にあてはまるものを選ぶ問題のうち、「代名詞の目的格を選ぶ問題」では8.8ポイント、「外国の生徒の依頼に対して、自分の町について紹介する問題」では県の正答率を2.1ポイント上回った。</p> <p>●英文を正しい語順で書く問題(過去の否定文)では、県の正答率を9.9ポイント下回った。</p>	<p>・書くことにおいては、無回答率や与えられた話題に対して、つながりのある英文を書く問題に対する苦手意識が市でも高いため、今後も、自分の知っている単語や文法を使って、つながりのある英文を書く練習に継続して取り組んでいく。</p>

宇都宮市立宝木中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定的回答が県を8.8%、市を9.6%上回っている。テストに向けた自主学習や、日々の家庭学習において、自分で計画を立てて勉強する習慣が身に付いている。今後も自主学習ノート指導を継続し、家庭学習の質の向上を図りたい。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」と「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的回答が県、市より5%以上上回っている。友達と話しやすい学級雰囲気が作られていると思われるので、今後も継続できるよう支援したい。

○「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定的回答も県、市より5%以上上回っている。教職員との関係が良好であり、今後も分かりやすい授業を心掛け、理解に繋がる指導をしていく。

○「自分は家族の大切な一員だと思う」の肯定的回答が県、市より4.8%上回っている。家族との関係が良好であることが、自己肯定感を高めていると思われる。今後とも、学校と家庭が連携して生徒の努力や成長を見守り、良さを伸ばす指導を推進していきたい。

●「難しい問題にであうと、よりやる気が出る」の肯定的回答が県より5.5%、市より2.8%下回っている。また、「漢字の読み方や言葉の意味がわからないときは、辞書を使って調べている」、「数学の授業で問題を解くときは、言葉や数、式だけでなく、図、表、グラフなどを使って考えるようにしている」の肯定的回答は県や市と比べて10%程度下回っている。難問や分からない問いに粘り強く取り組むことの大切さを、学年集会や保護者会を通して生徒に伝えていく。また、各教科においても、あきらめず取り組む姿勢を養成していく。

●「早寝、早起きを心がけている」の肯定的回答が県や市と比較して大きく下回っている。家庭と連携を図って、基本的な生活・学習習慣が身に付く指導を重点的に行っていく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・『わかる授業』の推進	・「本時の目標(めあて、ねらい)」の確実な提示	「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」の肯定的回答が県・市と比べて下回っている。目標の提示を、生徒にとって更に分かりやすくなるよう工夫していく。
	・生徒の考えを引き出し、思考を深められる(主体的に考えられる)発問の工夫	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答が市と比べて上回っている。各教科や総合的な学習の時間での取組の成果が表れている。
	・「振り返り」活動の徹底	「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定的回答が県より10.5%、市より6.2%下回っている。本時の授業で分かったこと、新たな疑問、自分の変化や成長など、生徒自身の学びの進化やつまずきの改善に繋がるよう、ねらいをもった「振り返り」計画的に位置付けて指導していきたい。
・家庭学習のより一層の充実	・自主学習ノートの活用の充実化、点検、アドバイス、賞賛 ・家庭学習の充実	「家で、学校の授業の復習をしている」と「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の肯定的回答が県・市と比べて高い。家庭学習が定着していることが伺える。さらに家庭学習を充実させるために、授業中のアドバイスを継続していきたい。